

業績一覧)

発表

1. 分離結紮療法を用いた ALTA 併用療法の工夫

Author：白畑 敦, 佐藤 純人, 大賀 純一, 石田 康男

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)75 巻 9 号 Page A99(2022.09)

2. 大腸内視鏡検診医に求められる資質

Author：大賀 純一

Source：日本消化器がん検診学会雑誌(1880-7666)60 巻 Suppl 総会 Page616(2022.05)

3. 当院における慢性便秘症に対する大腸経口腸管洗浄の現状

Author：白畑 敦, 大賀 純一

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)75 巻 6 号 Page324(2022.06)

4. 宮崎県における TCS を用いた大腸がんスクリーニングの可能性

Author：大賀 純一, 首藤 俊樹, 白畑 敦, 佐藤 純人, 石田 康男

Source：日本消化器がん検診学会雑誌(1880-7666)59 巻 Suppl 大会 Page668(2021.10)

5. 当院における痔核手術の工夫 痔核の形態に合せた術式選択

Author：白畑 敦, 佐藤 純人, 大賀 純一, 石田 康男

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)74 巻 9 号 Page A241(2021.09)

6. 大腸肛門機能障害の評価と治療 ラマン分光法を用いた直腸周囲の自律神経同定と新しい術後機能温存への試み

Author：佐藤 純人, 籠島 宏匡, 塩澤 学, 額田 卓, 井口 健太, 三箇山 洋, 大賀 純一, 白畑 敦, 沼田 正勝, 菅野 伸洋, 玉川 洋, 利野 靖, 田中 邦哉

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)74 巻 9 号 Page A94(2021.09)

7. 当院における痔核に対する手術の工夫

Author：白畑 敦, 石田 康男, 佐藤 純人, 大賀 純一, 曾田 均

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)73 巻 9 号 Page A99(2020.09)

8. 仙骨神経刺激療法のステージ II においてインピーダンスが基準値から逸脱した 2 症例

Author：吉永 聡史, 白畑 敦, 大賀 純一

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)73 巻 6 号 Page278(2020.06)

9. 局所麻酔下による仙骨神経刺激療法

Author：白畑 敦, 岡本 成亮, 石田 康男, 大賀 純一

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)73 巻 6 号 Page278(2020.06)

10. ALTA 療法における Hemorrhoid shrinking sign の有用性について

Author：大賀 純一, 白畑 敦, 石田 康男, 佐藤 純人, 松田 俊太郎

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)72 巻 9 号 Page A216(2019.09)

11. 肛門手術における塩酸キニーネの検討

Author：白畑 敦, 石田 康男, 佐藤 純人, 大賀 純一

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)72 巻 9 号 Page A216(2019.09)

12. 宮崎県におけるパターン化された大腸内視鏡検査

Author：大賀 純一, 松田 俊太郎

Source：日本消化器病学会九州支部例会・日本消化器内視鏡学会九州支部例会プログラム・抄録集 114 回・108 回 Page117(2019.11)

13. 宮崎県における大腸内視鏡の現状

Author：大賀 純一, 白畑 敦, 石田 康男, 松田 俊太郎

Source：日本消化器がん検診学会雑誌(1880-7666)57 巻 Suppl. Page1052(2019.09)

14. 肛門疾患日帰り手術に対する術後早期回復プログラム

Author：白畑 敦, 石田 康男, 松本 匡史, 大賀 純一

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)71 巻抄録号 Page A108(2018.09)

15. 痔核に対する古典的結紮療法と現代的治療法の融合

Author：白畑 敦, 岡本 成亮, 金 龍学, 田中 茉里子, 筋師 健, 佐藤 良平, 重田 孝信, 大山 真有美, 早稲田 正博, 鈴木 哲太郎, 松本 匡史, 石田 康男, 大賀 純一, 小野田 敏尚, 堀切 愛, 本田 朱麗

Source：日本外科学会定期学術集会抄録集 118 回 Page1638(2018.04)

16. ALTA 単独療法後に痔瘻が顕在化した 3 症例

Author：大賀 純一

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)70 巻抄録号 Page A339(2017.09)

17. 肛門疾患に対する塩酸キニーネのドラッグ・リ・プロファイリング

Author：白畑 敦, 金 龍学, 安達 奏, 筋師 健, 木村 都旭, 大山 真有美, 早稲田 正博, 鈴木 哲太郎, 高坂 佳宏, 松本 匡史, 石田 康男, 小野田 敏尚, 本田 朱麗, 大賀 純一, 岡本 成亮

Source：日本外科学会定期学術集会抄録集 117 回 Page PS-249-5(2017.04)

18. 直腸癌術後の便失禁に対する仙骨神経刺激療法の検討

Author：岡本 成亮, 白畑 敦, 金 龍学, 筋師 健, 木村 都旭, 大山 真有美, 早稲田 正博, 鈴木 哲太郎, 高坂 佳宏, 松本 匡史, 石田 康男, 小野田 敏尚, 本田 朱麗, 大賀 純一, 安達 奏

Source：日本外科学会定期学術集会抄録集 117 回 Page RS-3-3(2017.04)

19. 直腸脱手術後の Leeds-Keio 補強用メッシュ感染による肛門狭窄の 1 例

Author：白畑 敦, 安達 奏, 筋師 健, 橋本 清利, 三浦 康誠, 大山 真有美, 早稲田 正博, 鈴木 哲太郎, 高坂 佳宏, 松本 匡史, 石田 康男, 大賀 純一

Source：日本臨床外科学会雑誌(1345-2843)76 巻増刊 Page1067(2015.10)

20. 当院における直腸脱手術の検討 Leeds-Keio 補強用メッシュを用いた Thiersch 法の併用について

Author：白畑 敦, 三浦 康誠, 松本 匡史, 石田 康男, 大賀 純一

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)68 巻 9 号 Page796(2015.09)

21. 術前の MD-CT にて診断し得た小網内の右胃動脈出血の一例

Author：畑山 年之, 佐藤 純人, 大賀 純一

Source：日本消化器外科学会総会 67 回 Page3(2012.07)

22. ALTA 単独療法の適応疾患拡大と有害事象に関する検討

Author：大賀 純一

Source：第 8 回内痔核治療法研究会総会 (2014.07)

23. ALTA 単独療法に関連する評価指標についての検討

Author：大賀 純一

Source：第 9 回内痔核治療法研究会総会 (2015.07)

24. ALTA 単独療法に関連する評価指標についての試み

Author：大賀 純一

Source：第 10 回内痔核治療法研究会総会(2016.07)

2 5. ALTA 単独療法後における再投与例の検討

Author：大賀 純一

Source：第 11 回内痔核治療法研究会総会(2017.07)

2 6. ALTA 単独療法における有害事象の記載法

Author：大賀 純一、松田 俊太郎、白畑 敦、佐藤 純人、石田 康男

Source：第 13 回内痔核治療法研究会総会(2019.07)

2 7. ALTA 療法選択のインフォームドコンセント

Author：大賀 純一、松田 俊太郎、白畑 敦、石田 康男

Source：第 14 回内痔核治療法研究会総会(2020.07)

2 8. Novel rubber band ligation for hemorrhoids

Author：Oga J

Source：International surgical week ISW 2009

2 9. ALTA 単独療法の現状と有害事象の記載法

Author：大賀 純一、佐藤 純人、白畑 敦、石田 康男

Source：日本大腸肛門病学会雑誌 76 巻 9 号 Page A248 (2023. 09)

3 0. ALTA 単独療法の選択基準

Author：大賀 純一、首藤 俊樹、白畑 敦 ほか

Source：第 16 回内痔核治療法研究会総会(2023.07)

論文

1. 肛門手術における塩酸キニーネ注射薬の検討

Author：白畑 敦, 石田 康男, 大賀 純一, 佐藤 純人, 山本 伸一郎

Source：日本臨床肛門病学会雑誌(2432-4582)4 巻 2 号 Page67-70(2021.06)

Abstract：[はじめに]われわれは当院の医薬品適応外使用審査委員会、倫理委員会による審査承認後に術後持続鎮痛目的で塩酸キニーネ注射薬を投与し検討した。[対象]肛門疾患術後 100 例(痔核 68 名、痔瘻 9 名、裂肛 5 名、直腸脱 13 名、他 5 名)、年齢中央値 72.5 歳、男性 50 名、女性 50 名。[投与方法]肛門疾患術後、内外括約筋間溝外側に 27G 注射針にて 15～20 ヶ所に計 4mL を多点注射する。[有効性]術前、第 1 病日、第 7 病日の VAS の平均値は 0.79、1.15、0.48 だった。最も第 1 病日の VAS が高かった術式は痔瘻に対する Lay open 法だった(3.05、n=4)。[有害事象]創部腫脹 9%、感覚鈍麻 5%、漏出性便失禁 4%、便秘 3%、

創部出血 3%、創部そう痒感 1%だった。重篤な有害事象は認めず、いずれも保存的で軽快した。[まとめ]今回の結果は塩酸キニーネ注射薬の経験的知見の一助となり今後の臨床の場での適応が期待された。

2. 宮崎県における大腸内視鏡検査の現状

Author：大賀 純一, 白畑 敦, 佐藤 純人, 石田 康男

Source：日本消化器がん検診学会雑誌(1880-7666)59 巻 4 号 Page411-418(2021.07)

Abstract：宮崎県における全大腸内視鏡検査の実態を実際に現地調査と対面アンケートを行うことによって詳細な調査を行った。宮崎県内で全大腸内視鏡件数が多い施設に見学依頼を行い、見学可能であった 12 施設を対象とした。方法は現地調査 16 項目と対面アンケート 6 項目の全 22 項目を現地施設で見学しながら記録した。実際の挿入法は二木会専門用語を用いて大腸を 4 つに区分しパターン化率で判定した。宮崎県における大腸内視鏡検査は盲腸到達率が高く検査環境も良好であった。4 区域すべてでパターン化されている施設での挿入時間に統計学的有意差は認めなかったが($p < 0.072$)、パターン化されていない施設と比較して挿入時間は短い傾向にあった。今後はさらに検討施設を増やし、そこから得られた情報を施設間で共有することにより、受容性が高く安全かつ質の高い大腸内視鏡検査の標準化と精検受診率の向上が期待される。

3. ALTA 単独療法における根治度評価

Author：大賀 純一

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)72 巻 1 号 Page1-7(2019.01)

論文種類：原著論文/比較研究

Abstract：目的:ALTA 単独療法における根治度評価の有用性について検討した。対象と方法:2015 年 4 月より 2017 年 3 月までに ALTA 単独療法を施行した 96 症例を対象とし、術後における患者の主観的根治度と肛門鏡観察による内腔確認(内腔有群、内腔無群)の関連性について分析を行った。結果:ALTA 単独療法前後で内腔確認率は有意に上昇しており(術前 3.1%、術後 94.8%、 $p < 0.001$)、主観的根治度別でも根治度の高い症例で内腔有群が多かった。また再治療例では内腔有群から内腔無群に移行している症例が 87.5%と有意に高かった($p = 0.039$)。結論:内腔確認の有無は ALTA 療法の客観的根治度として有意な因子であり、内腔有を痔核縮小サイン(Hemorrhoid shrinking sign:HSS)と呼び、主観的根治度と併せて表記することで ALTA 単独療法の総合的な根治度評価が可能であると考えられた。

4. 切除不能進行・再発大腸癌における好中球/リンパ球比の意義について

Author：白畑 敦, 三浦 康誠, 松本 匡史, 石田 康男, 大賀 純一

Source：日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)69 巻 3 号 Page154-158(2016.03)

論文種類：原著論文/比較研究

Abstract : 化学療法を施行した切除不能進行・再発大腸癌 41 症例の好中球/リンパ球比(以下 NLR)を好中球とリンパ球数から算出しその意義を検討した.NLR の平均値は 3.19 ± 2.19 (0.45-10.5)で,白血球($r=0.634, p<0.0001$),CRP($r=0.526, p=0.0004$),アルブミン($r=-0.425, p=0.0056$)と相関を認めた.これらの症例を NLR が 2.77 以下の群とそれ以上の群に大別し,両者の生存率を比較した.両者の生存率には有意差がみられ,NLR が 2.77 以下の群の生存期間中央値は 765 日,2.77 以上の群では 535 日であった($p=0.0002$).NLR は切除不能進行・再発大腸癌症例において有用な予後予測マーカーである可能性が示唆された.

5. Clinical impact of a new method using a clear proctoscope to evaluate the therapeutic effect of sclerotherapy with aluminum potassium sulfate and tannic acid (ALTA) for internal hemorrhoids: a prospective cohort study.

Sato S, Oga J, Shirahata A, Ishida Y.

Quant Imaging Med Surg. 2023 Jan 1;13(1):441-448. doi: 10.21037/qims-22-471. Epub 2022 Nov 1.

6. Epidural pneumatosis associated with pneumomediastinum occurring at rest.

Nonaka M, Hatakeyama T, Okada I, Sakuraba K, Tomita Y, Sato S, Oga J, Ishida Y, Hataya K.

Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2009 Feb;15(1):38-41.

7. The usefulness and adverse events of bevacizumab combined with chemotherapy against advanced or recurrent colorectal cancer.

Oga J, Sakata M, Sato S, Matsumura N, Hatakeyama T, Nagayama H, Sakurai O, Ishida Y, Hataya K.

Gan To Kagaku Ryoho. 2010 Jun;37(6):1055-8.